

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成28年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
28-7	市街地におけるプロビーム道路照明についての研究開発	北海道大学 教授 萩原 亨	A
<p><研究の概要> ※成果報告レポートより引用</p> <p>市街地における道路上の横断歩行者を「明」で見せる道路照明を実現するため、理想のプロビーム配光の決定とそれを具体化する灯具の実現を研究目的とし、歩道を含めた道路全体を均一に明るくする配光とする一方、反対側からの車両や歩行者などにまぶしさを感じさせない配光となるプロビーム道路照明を研究開発する。</p> <p><事後評価結果></p> <p>正しいアプローチで研究が実施され、成果を出している。提案がなされたプロビーム道路灯の視認性評価や映像による横断歩行者の発見に関する計測がテストコースにより検証されていることは特に評価される内容であり、研究目的に対して十分な研究成果があったと考えられる。</p> <p>今後は、本研究成果を踏まえて道路管理者と連携して実用化を目指していただくとともに、道路の条件に応じた配光の最適設計方法(体系化)が提案されることを期待する。</p> <p><参考意見></p> <ol style="list-style-type: none">1. 今後、道路管理者と連携した実装に期待する。2. 基礎技術は実用レベルに開発されており、今後、最適設計方法の提案に期待する。3. 期間内に目標とする技術が開発でき、効果の検証も行われたことが確認された。実用されることを期待する。4. 配光の設置基準の考え方を整理し、技術が普及するようしてほしい。5. 道路状況に合わせた配光の制御など、実際の道路において適用性を検証し、実務に適用できるように設計方法の確立を期待したい。また、道路管理者が本技術の採用について適材適所な判断ができるように、その条件提示をしていただきたい。			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第37回新道路技術会議において審議したものである。